組立に関しては、今後回を重ねて討議されねばならない。

〈都竜張〉

《第四分科会　青少年部会》

一般青少年に対する教化を推進するために

中央教化研究会議が重ねられる中で必然的に湧き出た分野別部会が本年より、いよいよ実動に入ることとなり、それぞれの分野に別れて二日間、討議がなされた。

「次代を担う青少年を心身共にすこやかに育てることは、すべての人間が願うことである」

が、宗門の教師として、今回の青少年部会に参加されたのは八名であった。

参加者は、わずか八名であったが宗門の将来を考へ青少年問題を討議する各師の発言は活発であり熱心そのものであった。

最初に運営委員より、分科会の持ち方について説明があり、続いて座長より、

昨年の第十二回中央教研会議が身延で開催され、祖廟に於て身延結集大会宣言が誓願された中に示す具体的な努力目標を教師が実動に移すことが「八十年代の活動」であり、そのことが「立正安国の祖意を生かす」ことである、その点を踏まえて青少年教化を押し進めて行くことが今回のテーマであることを確認し、

更に、「八十年代に向って教化活動を如何に適応さすべきか」を討議し、浄化運動を更に展開し宗門の独自性を持ちつゝ、世界的視野にたって、お題目を唱えて行く土壌作りをすることが教研会議であるとの現宗研、中野文海師の基

調報告要旨を受けて議事に入った。

秋永智徳師の発題

(一) 現代社会に於ける青少年の実態把握は？

(イ) 宗門も各教師も青少年の心理や動向の実態について正しく把握されているか？

(ロ) 青少年教化活動に従事している各教師の実態や苦悩を吸い上げる場は教研会議の一部会のみで、活動把握が甘く、もっと重要視せねばならないと思うが？

等を指摘して、宗門体勢として、正しい実態把握をし、カリキュラムの提示と教材の整備、現場に則した法華経、宗祖の祖意を現代にマッチした方法で展開させる必要性を挙げられた。

(二) 青少年教化対策の宗門として望ましい基本姿勢の在り方は？

教化に携わる、全教師が同志的結合して、プロ意識にめざめ、教師としての使命感を自覚しなければと「教師の姿勢」の問題提示をされ、その為に宗門行政の中に青少年教化の充実を図る有機的機構の確立をと提言された。

(イ) 法器の育成

青少年教化は先ず各教師自身の足腰を、しっかりしたものにせねば不可能であり法器の育成こそ青少年教化の原点である。

(ロ) 僧侶の生涯教育体系の確立

一般在家の人たちに信頼され尊敬される教師にならねば教化活動は効果が上らない。

○信行道場の感激を生涯持続させる諸施策を強く押し進めよ

○教師研修の場の再編成や見直しの必要性

(ハ) 教化研究センター設立と情報収集センターの常設完備（中央教研センターと地方教研センター）

それには宗務院・宗務教区・宗務所がパイプを通して有機的機能を確立せねばならぬ。

(三) 他宗教団の布教活動の実態把握

日蓮宗としての独自性や祖意から離反しないことは勿論だが、他教団、特に新興教団の青少年教化の情報集収、分析検討等の実態研究の必要性を述べられた。

要するに論議でなく、機構、目的、カリキュラムの作成等を明確にし教師が同志的結合して実動に入ることが急務であると発題された。

座長より

現代社会の中で青少年非行（万引・異性交遊・暴力問題等）が大きく問題視されている。昭和五十四年度の青少年白書によると、少年犯罪は成人を追越し（窃盗は五二・七％）然も兇悪犯、粗暴犯も高い件数を示している。非行は社会病理の検温計だと云われているが、なぜこのように青少年非行が急増しているのであろうか？　社会はどう病ん

でいるのか？　の問題を探りつ、、われわれ教師は、青少年教化の問題を、どう取り組んで行くのか？　宗門機構の中にどのように対処し教化活動をどう生かして行き働きかけるかの件を各教師に発言を願った。

（各教師の発言は次の通り）個人名は記さず

◎青少年非行者の教化に当った中での発言

持に非行青少年の共通問題点

○善悪のけじめがつかない（罪悪感がない）

○ウソを平気でつく

○人と共にあることが気付かない

○有難たさがわからない

○ルールを守らない

○忍耐力がない

○聞く耳を持たない

と云うように宗教的教育がなされていないことが判って来た。

◎青少年非行者の教化での意見

○種々のケースがあるので、いいかげんな答えは出来ない？

○問題があることに気付かない親や子供を、どう教化するのか？

○問題のない子供にはどんな教化をするか？

○各教師がカウンセラーにならねば……

○教師の個人プレーでは問題があるので教師の連携が必要である

○センターや宗門機構の中に持込める場を作っておく必要性がある

○宗門は次代を担う青少年教化を最重点に考えてほしい

○非行を防ぐ最上の手だては、親や社会人の姿勢を正すことであり、大人が常に健全育成を心がけて手本となることである

◎各教師はどのような青少年教化をしているか

○少年少女修養道場（夏期修養道場）

○日曜学校

○スポーツ教室

○青少年問題相談室

◎講師団は

○日青の教師が連携して

○宗務所管内有志寺院で（組寺で）

○単位寺院の教師で

○外来講師と連携して

◎成功例

○スローガンやテーマを示し、一つの問題を徹底的に教え込み、どう世の中に生かして行くかが子供によって実現された時……

○継続的に教化プランを実動に移した時

○青少年のつどいの後で、親と子のつどいを持つことに於

て（アフタケアのため）
○園児や低学年の生徒は親と離して、逆に高学年の生徒の時は親と共に参加させた時
◎苦悩面
○教師が教化したことが、家庭に帰ってから親によって、つぶされてしまった時
○回を重ねる毎にマンネリカする
○教学に結びついた指導書やテキストがない
○水泳とか運動の時の事故を考へると心配
○指導者の人材不足
部会出席者のわずか八名（全員）が各地に於てそれぞれ目的意識を持ちつゝ実践された上で素晴らしい成功例や苦悩を持っておられることが会議を通して知ることが出来た。その結果、青少年教化のため、宗門で統一した模範指導書並にテキスト作りを一刻も早くしていただくと同時に活動状況の実態（成功並に苦悩点）を全国ネットで調査し参考資料とすれば大きな前進があると語り合い、今だにそれがなされていない宗門姿勢をなげいた。
◎家庭の中に於ける信仰のあり方について
青少年教化を進めて行く上で、一番大切なことは、家庭での親の信仰生活が大きく影響を持つことが話し合われ、そのために
○若妻信行会
○月例信行会
○月回向、年忌の場での布教
等の時に修養道場や日曜学校での教化を関連しておし進めて行くことが効果的である。
◎特に家庭の中で育くむ留意点
○父母が信仰を持つ（信仰相続を意図的に教育する）
○宗教的雰囲気を家庭の中に作る
○報恩感謝の念や豊かな感情を育成する
○汗を流すことや奉仕の心を育てる
○生命尊重の念を育てる
○祖伝や仏伝・宗門強信者の話を聞かす
○祝祭日の意義や人間的な、つながりのある行事に参加する
◎新興教団や他教団の教化方法の研究
○天理教の青年に対する布教法
○霊友会の青年に対する布教法
○キリスト教の伝道法
○善意銀行やボランティヤ活動を推進される中で日蓮教学の裏付けされた福祉青年会組織の結成や活動方法を考えて行こう
○こゝでも仏子の自覚を植えつけるためのテキストの作成の必要性
○宗門内でも七名で構成された青少年教化対策委員会が結

成されているようだが、もっと開かれた充実した委員会としてもらいたい

最後に二日間にわたる話し合いの中で青少年部会で重要な点を要望事項とした

(一) 青少年教化の実態把握調査と教師間で青少年教化活動体験と意見交流の促進、並に宗門で統一した指導書やテキストを早期発行

(二) 各教師の苦悩を吸い上げ、人材発掘や行政の窓口となる青少年対策課（推進課）の設置

(三) 祖願を、この世の中に顕現しくため、法華経の教えをふまえた上で、宗内外を問わず福祉青年会を組織し、活動を目指して行こう。

〈井本学雄〉